

五八
うな事は多少の壓迫を前提として意義を有つのである。東洋の道徳のやうに、君は君として仁愛の心を有ち、親は親として慈愛の心を有ち、さうして子も臣も皆精神的敬意を拂ひ、感謝を捧げて居る所に、自由といふやうな事を持つて來た所が、少なくとも是は第二、第三に位する道徳であるといふやうに、その本末輕重を知らなければならぬ。然るに此を捨て、彼に趨らんとするは、即ち末を執つて本を棄てるので、やはり暗愚の失を免れぬ。

三、宇宙法則律

第三には宇宙法則律であつて、是れは科學以下に天則が行はれて居るが如くに、科學以上の、眼に見えざる所の所謂道徳的、宗教的、哲學的の側にも宇宙の法則のあることを知らなければならぬ。今の文明は科學以下に於て天則の存するを知つて居る、雨の降るとき戸外へ出たら濡れることを知つて居る、風の吹くとき戸を開めなければならぬことを知つて居る、併しそれ以上は知らぬ……左様な淺薄なる文明に甘んじてはならぬ、今謂ふ宇宙の法則とは左様なものではない、所謂「見えざるを慎しむ」のである。人類が見えざるを慎しむことを知らなくなつた時、人類の文明は破壊に向ひつゝあるのであります。この事は惟神の教から見ても、聖賢の教から見ても、佛教から見ても、又西洋の健全なる思想から見ても古今東西みな揆を一にして居るのであります。この宇宙の法則律といふことは色々解釋の仕方もありますが、日本に於ては宇宙の精神は我が神様に現れ、神様の精神は皇室に傳はつて慈愛深き聖徳となつて居り、又一方には稜威と現はれて冒すべからざる尊嚴となつて居ります。この皇室の仁愛と尊嚴との基く所は、則ち宇宙の法則に存するのであります。家庭に於て父母が宇宙の法則に代つて、慈愛と威嚴とを以て如何に子が賢くも親を侮ることを許さぬ、如何なる場合にも父母は慈愛の精神を捨てないといふ所に、天に代つて居る徳があるのであります。後進、先進の關係もその通りであります。社會に先んじて生れ、先んじ